

薬学共用試験 OSCE トライアル—評価者アンケート調査—

○城戸 香織¹, 大光 正男¹, 勝山 壮¹, 右京 里枝子¹, 齋田 哲也¹, 村上 克幸¹,
前田 共秀¹, 森田 桂子¹(¹第一薬大・実務実習教育センター)

【目的】平成 21 年度より本格実施される客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination : OSCE) の評価者として, 実施大学の教員の他に外部評価者の参加が求められている. 平成 20 年 9 月 7 日, 第一薬科大学 4 年次学生を対象に実施した OSCE トライアルでは, 外部評価者として病院・薬局薬剤師, 他大学教員からの協力を得た. OSCE の評価に関する問題点を抽出するために, 評価者に対してアンケート調査を実施した. 【方法】アンケート調査の対象は, 本学 OSCE トライアルで標準課題 (散剤調剤, 軟膏調剤, 調剤薬鑑査, 手洗いと手袋の脱着, 患者対応, 薬剤交付) を受験した 4 年次学生 126 名の評価者 115 名とした. 評価は受験生 1 名に対して 2 名の評価者で実施した. OSCE トライアル終了後, 評価者に記名のアンケート用紙を配布・回収して, からのアンケート結果を大学職員, 病院薬剤師, 薬局薬剤師の 3 群に分けて比較検討した. アンケート結果は χ^2 検定にて有意差検定を行い, 危険率 5%未満を有意とした. 【結果・考察】評価者 109 名から回答を得た (回収率 95%). 評価者の内訳は大学職員 42 名, 病院薬剤師 27 名, 薬局薬剤師 46 名であった. 「評価は今回が初めて」と回答したのは, 病院薬剤師 26 名 (96.3%), 薬局薬剤師 39 名 (92.9%) で, 大学職員 10 名 (25%) に比べて有意に高かった ($p < 0.0001$). しかしながら, 「担当した課題の実務経験あり」と回答したのは, 病院薬剤師 26 名 (96.3%), 薬局薬剤師 36 名 (85.7%) で, 大学職員 15 名 (37.5%) に比べて有意に高かった ($p < 0.0001$). 3 群とも評価者の 80%以上が「適正な判断できた」と回答したが, 「自信がない」も 10%以上あった. また, 「評価者の事前教育が必要」との回答は 3 群とも 60%を超えていた. 今後とも, OSCE を適正に実施するために, OSCE 関連の講習会を充実していきたい.